

サタデー コラム

真夏の8月14・17日の4日間「ぎふ立志リーダー養成塾」がトヨタ白川郷自然学校を会場に実施されました。この事業は、岐阜県が2004年度に県教育改革研究会から「青年前期にある中学生を対象に、21世紀を担い得る次世代リーダーを養成することが望ましい」旨の提言を受け、05年に第1回目が開催され、15回目となります。

私は県経済同友会の筆頭代表幹事として、今年で4回目の塾長を拝命し、開塾式、塾長講義などを務めさせていただきます。副塾長は岐阜大学地域協学センター長の益川浩一教授に務めていただきました。この養成塾では、リーダーとして必要な資質や能力の育成に向けたプログラムを実施します。特徴とし

中学生を将来のリーダーに

ではアクティブ・ラーニングを用いた地域課題の解決に向けた企画提案を行い、仲間との共同活動ができるようにしています。事業は岐阜県主催で、知事部局の環境生活部私学振興・青少年課が担当します。

現在の日本は、超少子高齢化、人口減少社会に突入し、財政危機状態の中で医療・介護・年金などの社会保障問題を抱え、国際情勢もより複雑な状況となっており、さらに温暖化に代表される地球規模の環境問題など課題が山積しています。このような時代だからこそ、力強い優秀なリーダーが求められています。

リーダーは答えない課題に立ち向かい、意思決定能力すなわち決断力に優れ、さらに広い視野と高い志、倫理感ある人格を基にビジョンを立て、それを伝える能力が必要とされます。リーダーの育成は横並びの学校教育では限界があります。戦後、日本の教育は、平等な民主主義教育の名の下にリーダー養成教育が等閑になってきたともいえます。その結果、経済のグローバル化が進む中で、欧米先進国や中国のようにカリスマ性を持つたリーダーが現れませんでした。

そして目標を岐阜県に向ける

と、県内から首相は出ておらず、国家レベルでの政治、社会面でのトップリーダーは輩出されていません。

このような背景の危機感の下、この養成塾は感受性が豊かで、学校において将来各方面で活躍が期待される志の高い中学生を県内から毎年24人ほど選抜します。目的達成のため、責任ある決断ができ、人をまとめ導く力を伸ばす将来のリーダーを養成することを目的とし、4日間という短期間に集中的かつ徹底して実践活動を行います。

この養成塾の成果が表れるのは20年以上、30年先かもしれませんが、この4年間、塾生として学んでくれた約100人の中学生が岐阜県の、日本の、世界のリーダーとなって羽ばたいてくれる日を心待ちにしています。



秋田屋本店社長 中村源次郎氏

なかむら・げんじろう 1951年、岐阜市生まれ。博士(医学)。県経済同友会筆頭代表幹事。岐阜南法人会長。県製菓協会長。みつばちの家庭理事長。県養蜂組合連合会長。岐阜放送番組審議会委員長。岐阜県フェンシング協会長。県立岐阜北高校同窓会長。